



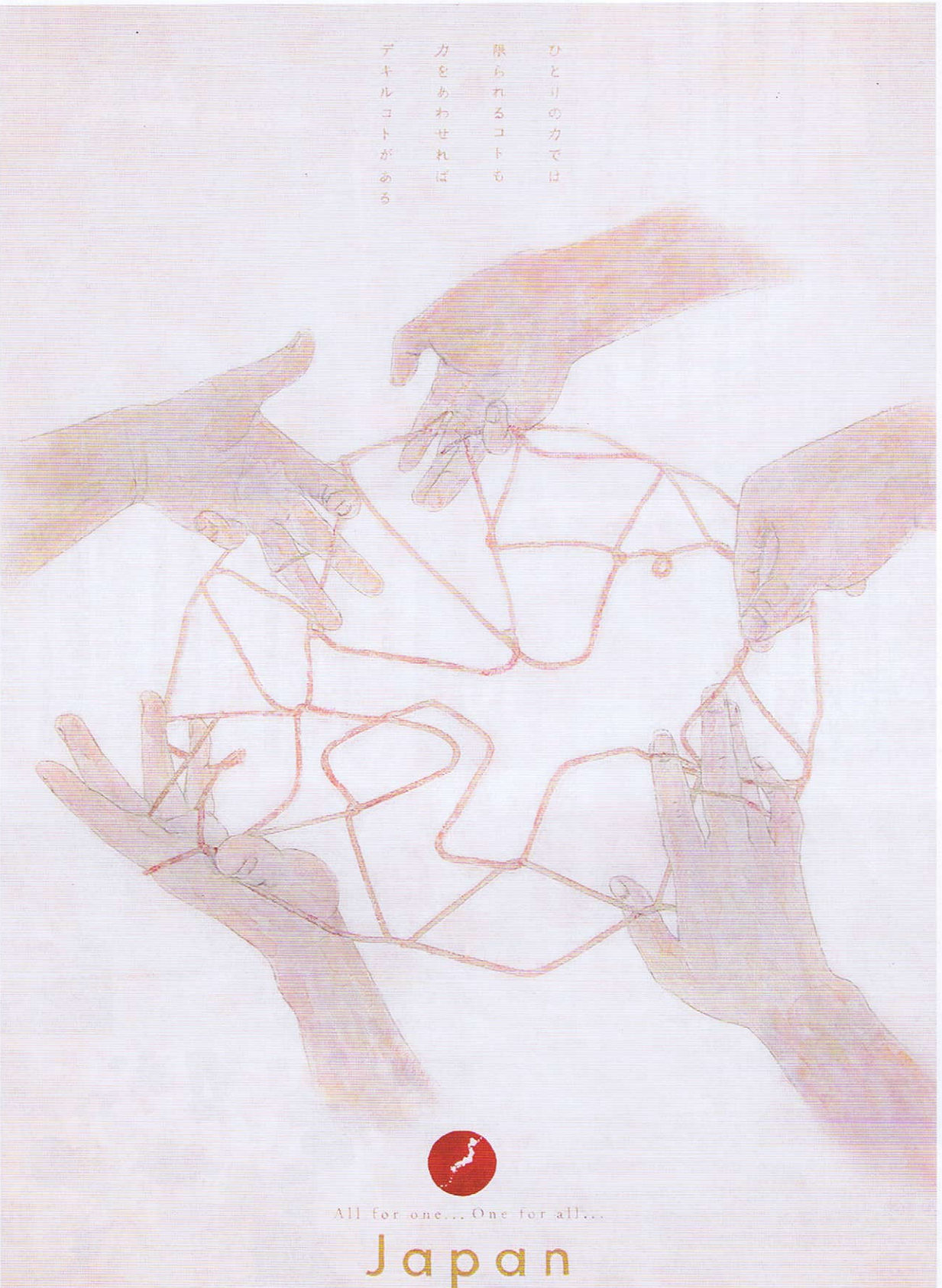
NPO法人芸術の森デザイン会議

arts-forest

第12号

Arts-Forest Design Network Information

ひとりの方では
供られるコトも
力をあわせれば
デキルコトがある



All for one... One for all...

Japan

連載コラム④

船小屋と鉱泉と焼物

安西 司

全4回にわたり毎号の安西司さんによるコラムをお届けしています。今回は最終回です。



船小屋温泉が最も華やかなのは昭和10年頃と言われています。多くの著名人や歴代総理大臣も訪れたそうですが、以降徐々に後退しました。特に高度経済成長期に入るとマイカーなどの普及に伴い、他の観光施設に人が流れ出します。西條温泉センターの誘致や花火大会をスタートさせたなど対策も講じましたが、昭和46年国鉄船小屋駅は無人駅となり廃止。最終的には、なぜ船小屋がそこまで衰退してしまったのか、その要因に迫りたいと思います。

船小屋温泉はまず浴場の経営から始まりました。(船小屋鉱泉合資会社「明治21年発足」)代表は八女焼物の商人小山田 和助。出資者32名の内11名が焼物屋で、地元尾島村は 榎本 清一1人でした。当時の福島県人は、和紙・生紙・製茶などを海外に輸出するほど資金が豊富であり、交易や行政機関を通じた情報力と優れた分析力で、まだ何も無かった船小屋にいち早く将来性を見出だ

していたようです。その後の盛況ぶりは前面でお伝えした通りです。

一方、地元旅館や商店を営む人達は、鉱泉地が船小屋地域以外の資産家によって経営されていたため、意思の疎通を欠く面があり、鉱泉の権利を譲り受ける努力を重ねました。結果、盛況降りは鉱泉地を地元で売却して解散します。昭和10年には株主が地元船小屋居住者に限る「船小屋鉱泉株式会社」を発足します。が、皮肉なことに船小屋が衰退をはじめると同時に重要なのです。

物語の始まりには、鉱泉(炭酸泉)の発見。船小屋の原点は「鉱泉(炭酸泉)の発見」。そして「目の前に広がる緑の養生の独特で何もと言えない素晴らしい景観」の2点に尽くされます。当初は、この原点を活かしながら発展しましたが、投資の対象でもあったため、利益が出たらあっさり開放されました。そして買った土地であることが次第に忘れていき、むしろ足りないものを賃にするようになっていったのです。結果、街づくりのことも目も一掃で、自分の住む街の魅力に気付くまで発展し、それを見失うことによって衰退するようです。嬉しい事に近年、炭酸泉の注目度が煽られています。この炭泉は、世界中でもこの限られた所にしか湧かないことも証明されました。深遠した「すすめ湯」の加温設備は過半数というところで完全とは言い難

いですが、未来の船小屋にとっての貴重な財産ですから、儲け方で改善し、今度こそしっかりと守り育てていきたいです。そして私自身も鉱泉を利用して器を作る者として、今後も船小屋に関わり暮らしていきたいと思っています。

ところで

あなたの住む街の
原点は何ですか？

(特)



最終回に登場した八女焼物は、八女焼物で楽(いん)作りを最初に着たい人としても知られています。その伝統焼物は、足灯の形を製作されている。今も「楽」さんが、今も大切に守られています。また、船小屋にも、炭酸泉水、山田等炭酸、旧東町温泉などがありますが、当時の様子がかかっている焼物が残っています。そして船小屋の未来にとって、大切な文化財です。最後になりましたが、4回にわたり、お付き合いありがとうございました。

Pick Up

外部
紹介
ア
ー
ト

当会では、たくさんの団体と提携して文化活動を展開しています。このコーナーでは、文化活動やお街おしなど活動している外部の団体を紹介していきます。

File 086 八女の町並みコンサート
実行委員会 アートリンク事業

市民の協働による
まちづくり提案事業

(八女市、H23年度)

NPO法人芸術の森デザイン会理事長の津留誠一先生に実行委員長をお願いし、美術作家 元田典利、おひなす「八女」玉城康人が一市民として事務所を行っています。

元田企画「仙の聖造形作品展」(矢部村)や八女アーティストスペース事業として、美術と音楽のインタラクション/町並みにおけるコラボを始めました。2003年から元田と玉城が協働したピースコミュニケーション/八女アートプロジェクトと、「元田典利 レントガート展」、「八女-長崎ピースコミュニケーション展」などの美術・音楽・その他玉城文化イベントを行っています。これは、元田のアメリ留学帰国後の活動、沖縄出身で大学卒業後、子ども劇場専従、八女市町会会館、サザンシティ会館勤務の玉城の活動において、旧八女・八女市・新市市などの矢部川流域圏での、八女アーティストスペース-八女ふるさと館、八女アート会館、白鷺ギャラリーめぐり(一部、八女文化連想彫刻工芸部展での企画を含む)、NPO法人芸術の森デザイン会会館-祭園を楽しむ会などの活動を通じて推進したものです。関係した多くの皆さんに協力していただいています。本年4月30日〜5月2日に(仮称企業家)芸術の森芸術祭や「八女ベーズンドルフィー音楽祭プロジェクト」に参戦して、「八女の町並みコンサート-音楽祭」のいざなげを開催し、参加者の方々や地域の多くの方々から、好意的な反応をいただきました。その後、八女市の上記事業に採択されています。この提案事業として、8月23・24日に矢部村に

おいて、NPO法人旭のふるさと文化館などの協力をいただき、(美術)津留先生、元田の2日間のダンボールによる新しいアート制作と指導体験を含めたワークショップ、(音楽)深町啓秀さん(現後市)と執行役員さん(神楽川農産(住)企画)による、北九州リコーダーサンプルのミニコンサートを含め、「リコーダーとリュート」のミニコンサートなどの子供・住民参加による2日間の体験的なワークショップを行いました。

10月3日に黒木町町会コミュニティセンターで、韓国濟州島、劇団「リ」研究所の「オドリギ」公演を夜-朝の2回開催しました。又、ザリ研究所と事務局、施設の先生方も参加して、ダンボールを使って、美術と演劇のパフォーマンスのワークショップを、10月2日に行い、10月6日星野村「夢の扉」図書ボランティアの会、10月7日八女市立福島小学校児童保育で、延約300人の方々が参加しました。これらの美術・音楽・演劇の各分野のアーティストの交流、コラボレーションによる子供たちやそれを支える地域コミュニティの人達との体験・交流において、地域や生活の中の見えない希望が芽でたらんと感じました。

来年2月の美術・音楽のワークショップを含め、各地域をネットワークし、広域圏の多様な町並み・社会環境を通じて、芸術文化の交流・発信と、矢部川流域圏の生活・文化の独自性を体験する芸術祭として、地域と外部の方々の人、アイデアとアートを繋いでいきたいと思えます。多くの方々のご協力をお願いします。NPO法人芸術の森デザイン会会館から助力・力をいただいた事にしてお礼申し上げます。

イベントのおしらせ

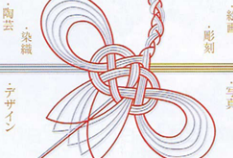
NPO法人 芸術の森デザイン会 主催
芸術と文化の

縁結び展

AFDN Exhibition 2012

今年も買きたい
それぞれのスタイル・陶芸
・染織

・デザイン

・絵画
・彫刻

・写真

平成24年

1月1日 → 1月9日

元旦0時開館

水田天満宮・とびうめ会館

福岡県筑後市大字水田62番地の1

arts-forest Vol. 12

Arts-Forest Design Network Information

2011年12月1日発行

編集・発行NPO法人芸術の森デザイン会事務局

福岡県八女郡山江町大字藤田999

TEL・FAX 0942-52-8063